

大谷光瑞 おほいたかひかり 僧侶。明治九年十一月二十七日京都生れ、昭和二十三年十月五日歿（八六一九四）。幼名峻庵。法名鏡如。大谷光尊の長男。學務院卒。明治二十二年歐洲留學。二十六年眞宗本願寺派に二代法主。京内改革の他、大谷探検隊を中央アジアに二度派遣して成果を擧げた。大正三年本山の獄獄事件等により辭任し、爾後南洋、滿洲等で活動。佛教による大アジア主義を唱へた。昭和十五年内閣参議。

『大谷光瑞全集』全十二卷（有光社）がある。

- 著書 『概世餘言』（大正の青年と帝國の前途）を讀む（大正六年四月） 『他力眞宗』（大正十一年四月十五日上海・大乗社、大阪・太陽閣發賣）、 『對支橫議―並海外投資論』（大正十二年五月十日民友社）、 『帝國之前途』（昭和四年七月五日大乗社東京支部）、 『國産の愛用』（昭和六年二月十日大乗社東京支部）、 『世間・非世間』（金谷哲吾編、昭和六年四月一日實業之日本社・讀賣新聞社）、 『花』（昭和六年九月十五日大乗社東京支部）、 『支那の國民性』（昭和七年二月十日大乗社東京支部）、 『滿洲國の將來』（昭和八年二月五日大乗社東京支部）、 『支那の將來と我帝國の使命』（昭和十一年十一月十八日有光社）、 『大陸のまじり』（昭和十二年七月五日有光社） 『精神文化叢書』（『蕭領東印度地誌』（昭和十五年十一月二十日有光社）、 『隨筆百訓』（昭和十六年十一月十五日有光社）、 『食のこころ』（合著・宮崎小次郎編、昭和十七年二月十五日京都・見文社）、 『マダガスカル島誌』（昭和十七年七月二十日南洋經濟研究所出版部） 『南洋資料』（『支那鐵道建設計劃』（昭和十八年十月五日上海・

華中鐵道股份有限公司、大谷探検隊「シムラード探検」(合著・
長沢知俊編、昭和四十二年五月、二百頁白水社「西域探検紀行全集」)
等。

文獻、田中未廣著「^{興亞の}先覺大谷光瑞師一附支那事變善後方策」(昭和十
四年十一月、二百頁國新編社出版部)、岡西為人編「大谷光瑞師著作
総覧」(昭和二十九年四月、二百頁門会)等。

